令和　7年度　園評価 書

園番号　18　園名　下川原こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
笑顔あふれる 元気な子	重点目標 「夢中になって 好きを 楽しもう」	体を動かすことの心地よさを味わい喜んで遊ぶ	保育者も一緒に体を動かして遊ぶことで、子どもたちも室内、外で「ジャンプ」「登る」など体を動かして遊んでいる。「〇〇できるようになりたい」「〇〇できた」など自信にもつながっている。	A A81.8% B51.5% C3% 未３%	A	・小学校でも自信をもって生活することを大事にしている。そのためには「やりたい」「おもしろい」という思いが大事になる。重点目標にある「夢中になって好きを楽しもう」の夢中になる時間が確保されているんだなと感じた。それは集中する、やりたいが見つかる、自信につながっていく。こういった経験を就学前にやっていただけるとありがたい。また、夢中は「疲れる」こと。疲れれば、ご飯もたくさん食べて、睡眠もたくさんとる。そういった意味でも大事な経験になる ・個がしっかりすることも大事。相手の話を聞くも「保育者が一緒に遊ぶ」中できるようになっていくと思う ・「友だちの遊びのまねをしたり、お互いに伝え合いながら楽しもうとしている」はB評価だが、聞こうとする姿はみられているのでA評価でいいと思う	今年度保育者が子どもたちとたくさん遊ぶ姿が増えた。その中で子どもの「今」を捉えられる保育者が増えてきたことで、子どもたちに適切な声掛けができ、できないことも諦めず挑戦する姿が見られるようになっている。 自分の思いを伝えられる子が多くなったが、まだ相手の話が聞ける子が少ないため来年度はそこを含め「あそび改善構想」などで対応を考えていきたい。
		子どもがやってみようと思ったことに挑戦したり、繰り返しやってみようとする姿がある	子どもの様子をしっかり捉え、何度も挑戦する気持ちになるような関わりをしたことで、繰り返し楽しむ姿が増えてきた。失敗しても何回も挑戦する姿が増えてきている。	A A51.5% B42.4% 未6.1%	A		
		友だちの遊びをまねたり、お互いに伝え合いながら楽しもうとしている	保育者が一緒に遊ぶ中で、友達がやっている姿をみてまねたり、一緒に遊ぶ姿が増えた。自分の思いを聴いてもらえた経験が増え、少しずつ相手の話を聞く姿が増えてきている。	B A 42.4% B 54.5% 未 3%	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標		自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験などの差を十分理解し、適切に援助を行っている	子ども一人一人の育ちや経験を理解し、それを職員間で伝え合ったり、どのような援助や関わりができるかを話し合ったりしながら個々に合わせた丁寧な援助を行っている。また、個を大切にしながらも年齢の発達、発達のつながりも意識していった。	A A 48. 5% B 45. 5% 未 6%	A	・子どもと先生が一つになっていると遊んでいる姿から感じた。先生の愛情を感じ、先生も子どもたちも楽しそうに遊んでいる ・子どもが落ち着いている（コロナ禍とは違う落ち着き）。自分を見て欲しい子が多かったが、相手のことを聞ける、見れる子が育ってきている。先生が聞いてあげること（思いを吸収してくれている）が子どもの心の安定につながっている ・はらぱっぱで年長児がコマ回し、縄跳びなど自分の自慢を披露してくれた。自分の自慢は自信になっていると思う ・やりたい意欲が家庭でもみられる。それは園で意欲を出してくれたからだと思う。家庭でも尊重していきたい ・小学校でも防災訓練のやり方が多岐にわたるようになってきた。いろいろな状況を考えて行っていかなければならない。B評価だが、さらに良くなるためのB評価。A評価でもいいと思うが、先生たちがわかってきてどうしたらいいか考えている時なので、そのままB評価でもいい。防災に関しては地域ごと状況が違うので（津波など）、地域ぐるみで減災をすすめていった方がいい ・行事のドキュメンテーションなど、とても上手に作っていて、保護者にも発信されていた。保護者も嬉しいと思う ・「教育・保育環境の充実」では工夫してやっていて、先生たちも教材研究をやるなどレベルの高さを感じる。意欲を感じるB評価 ・長田地区の交流はすばらしい取り組み。小学校でいろいろな子とかかわっていくなかで、自分で考えることも大事になってくる。どうやって対応していくか交流会で学んでいけば小学校に行っても友だちと仲良くしてくれるかなと思う ・おしゃべりサロンではもっと身近な教育として、食育などの園のドキュメンテーションを張り出してもいいかもしれない	職員間で伝え合う時間を意識的に作っていくことで子ども理解を深めていく。また、個を大切にすると共に、年齢の発達、発達のつながりも考えながら保育していく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごすようにしている	早番・遅番等様々な保育時間の子どもたちがいるので、引き継ぎやクラスでの連絡・報告・確認を丁寧に行っていき、一人一人のペースに合わせた対応をしていった。また、保護者と連携するなど、家庭環境にも考慮しながら支えていった。	A A 75. 8% B 21. 2% 未 3%	A		引き続き園全体で連絡・報告・確認を丁寧に行っていき、一人一人の理解を深めていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちがやってみたいと思える環境を、一緒に考え行っている	『一緒に遊ぶ』ことで子どもの興味を捉えたり、「やりたい」「おもしろい」の気持ちを引き出したりしていった。子どもたちも「やりたい」と思いを出すようになってきた。しかし、遊びが展開しないなど子どもと一緒に環境を考えていくことはまだ課題が残る。	A A 48. 5% B 45. 5% 未 6%	A		引き続き一緒に遊びながら、やりたいと思える環境作りを一緒にしていく。また、職員間で子どもについて語り合う機会を大切にしていくことで、情報共有するだけでなく、子どもの思いの捉え、環境構成に活かしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定の訓練を実施し、園のマニュアルを参考に職員が考え行動している	全職員が減災教育の研修を受けたことでより具体的な設定をして、訓練を行うようになった。職員自身が状況に合わせてどのように身を守り避難するのが最善かを考え訓練に参加するようになってきている。	B A 39.4% B 57.6% C 3%	B		保育者だけでなく子どもたち自身も”自分の身は自分で守る”という意識が持てるようにし、自分でどこに避難すべきかなどを考えていけるような訓練を行う。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動を通し、食への興味関心を持つ	自分たちで育てた野菜を使ったクッキングや、毎月の「食育の日」で旬の食べ物に触れたり五感で味わったりすることで、食材を身近に感じることができた。また玄関に給食のディスプレイを掲示することで、保護者にも興味をもってもらうことができた。	A A 57. 6% B 36. 3% 未 6. 1%	A		毎月の「食育の日」で、食材に触れると同時に栄養について話をし、食べることへの意欲に繋げていく。また幼児だけでなく、乳児も参加できる時には参加し興味をもてるようにしていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	担当者を中心に、少人数の「ぱんだの会」を行う中で、一人一人に合った支援を考え実践している	個々に合わせた支援を考え、支援方法を職員間で共有しながらねらいをもってぱんだの会を行うことができている。ピーチサロンでは、親子で楽しむ企画や外部から講師を招いて療育についての話や相談会を行い、保護者支援につなげている。	A A 36. 3% B 24.2.% 未 36.3%	A		支援児が多い中で、園全体で情報を共有し、同じ思いや関わりができるようにしていく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当が責任を持って発信し、職員全員で進めている	各分掌が責任を持って取り組み、一人だけがやることのないよう意識し、リーダーを中心に役割を分担するなどしていった。また、保護者にも園の活動を伝えていくための発信ができた。	A A 48. 5% B 42. 4% 未 9. 1%	A		園全体で取り組むための取り組みの見える化、全体への声かけ、保護者への発信など有効的な方法を考えていく必要がある。
6 研　修	(1)研修体制の充実	子どもたちと一緒に遊ぶために、引き出しが増える楽しい園内研修を行っている	実技研修で園周辺を散策し、散歩や自然物探し等日々の保育に活かしていくことができた。会議の中で保育を語り合う場を設けていくことで、園の実態や改善策を職員全体で共有できた。公開保育の中で子どもと遊ぶ大切さを改めて学び、園全体で取り組むことができている。	A A 57.6% B 30.4% C 6% 未 6%	A		研修の中での学びの多さや、職員が参加しやすい雰囲気から、実践的な研修をより増やしていく。勤務形態問わず参加できる方法を考えていく。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	素材や教材の使い方、遊び方を学び保育に取り入れている	担任間で話し合いながら素材や教材を提供している。後期は子ども達と一緒に選んだり探したりする場も増えていった。学年の低いクラスでは、正しい使い方を最初に知らせていくことを意識していくようにした。	B A 30.4% B 57.6% C3% D3% 未 6%	B		子どもたち自身で考えられる環境を意識して作っていく。素材だけでなく、それをつなげる接着面等も考えられる環境を整えていく。繰り返しじっくりと遊べる環境や時間を確保していく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	コドモンでの配信やドキュメンテーション以外でも、子どもの遊びや成長を伝え、保護者と共有できるようにしている	日々の配信や登降園時の積極的な声掛けにより、子どもたちの様子や育ちの部分で保護者と共通理解をもつことができ、必要に応じて面談も行い、子育ての悩み等も共有できている。 信頼関係を築くため、笑顔で元気な挨拶も取り組むことができている。	A A 70. 0% B 15. 0% 未 15. 0%	A		保育についてより理解してもらえるように、配信だけでは伝わりにくい、保育者の思いや意図等も発信していけるように工夫する。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	長田地区の5歳児交流を進めていく。 また小学生と年長児が交流をもてる機会を作っていく	これまで５歳児の交流を５回以上行うことができている。保育者が内容を決めるのではなく、子どもたちの思いや考えを取り入れている。今年から長田地区の担任が歳児別に集まり、保育方法や悩みを共有し、情報交換の機会をつくることができている。	A A 36. 3% B 24.2% 未 36.3%	A		参観会や公開保育での情報交換はできているが、小学生と年長児の交流を定期的に行うことが出来ていないため、はやい段階から計画していく。
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の行事(ふれあいサロン・はらぱっぱ・かわはらまつりなど）に参加し、親しまれる園づくりに努めている	ふれあいサロン、はらぱっぱと地域の行事に参加したりおしゃべりサロンでは在園児が歌をうたうなどの機会を作り、子どもたちも楽しんで参加していた。また、地域の方からは参加を楽しみにしているという声をいただいている。	A A 48. 5% B 33. 3% 未 18.2%	A		園だけでは経験できないことを大切にすると共に保育者が地域とのつながり、子どもたちの中で何を育てていくのかを考えていく。おしゃべりサロンでは園の行事のドキュメンテーションを張り出し、様子を知ってもらうだけでなく教育という観点としても活用していく。